

広土会新聞

第5号

2000.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

土木技術者の使命



広島工業大学学長
櫻井春輔

広土会会員の皆様方におかれましては新しいミレニアムを迎え、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は前任者の川崎学長の後をうけて、昨年4月に着任いたしました。皆様方とはまだお目に掛かる機会がありませんが、実は私の親父が工大に御世話になり、その時広土会の初代会長を務めたと聞いております。その上、私も親父と同じ土木工学が専門ですので、広土会は私にとって非常に身近な存在です。何卒、宜しく願い致します。

さて、いま土木技術が社会において大きな関心ごとになっています。あの兵庫県南部地震においては多くの土木構造物が崩壊しました。それまで、カリフォルニア等諸外国において生じた地震の被害調査の度に、日本の耐震設計基準はレベルの高いものであり、土木構造物は十分に安全であると我々土木技術者は胸を張ってきたものです。しかし、現実生じた直下型地震によって壊滅的な被害を受けた構造物を見て、多くの土木技術者は大きな衝撃を受けました。一般の人達も土木構造物は地震に対して必ずしも安全では無いとの認識をもちました。また、最近には新幹線の覆工コンクリートが剥離崩落する事故が起きました。これによっても一般の人達は土木技術に対する不信感を深めたように思います。一方、土木技術者に対してもこれらは大きな問題を突きつけたと思います。これらの例からも分かるように、土木工学はすでに完成された分野であり、研究開発の余地はもはや残されていないような印象を、学生を含めて一般の人達は持っているかもしれません。しかし現実にはそうでなく、新たな技術開発が必要な分野が非常に多くあります。特に今後は土木構造物の管理技術の開発が重要であるように思います。先に、北海道の豊浜トンネルにおいて生じた大規模岩盤崩落事故においては、その管理技術並びに管理体制が問われることになりました。しかし、これは自然の岩盤の崩壊であり、その予測は現在の岩盤工学の最先端の知見をもってしても非常に困難なものです。ただし国家予算に匹敵するようなお金を投入すれば別ですが。一方、地震については天災であり被害に遭えば人はその不運を嘆きます。これは、地震予知はまだ非常に難しいということを一般の人達が知っているからです。しかし岩盤崩壊の予測は現段階では地震の予測と同様に非常に困難であるにもか

かわらず、そのことが一般に認識されていないように思います。

このように考えてくると、従来から土木の分野においては一般の人達の意識と専門家の意識が必ずしも同じであるとは言えないように思えます。したがって今後、我々土木技術者は自分達の仕事の内容について、もっと一般の人達にも分かる言葉でPRする必要があるように思います。

また、最近、原子力発電所、空港、ダムあるいは河口堰などの大型土木構造物の建設計画に対して住民参加が強く叫ばれ、あるプロジェクトは住民の力によって中止に追い込まれています。しかし、このような国家プロジェクトはわが国の将来を見据えた高度な判断に基づき決定されているものです。また、そこには土木計画学の理論に基づく科学的な根拠のあることは言うまでもありません。しかし、このような科学的根拠をもって計画された国家プロジェクトが地域住民の多数決によってその是非が決定されるようなことがあれば土木技術者としては大変残念です。勿論、科学的根拠をもたずに計画されたプロジェクトであるなら、それは論外です。ここで、参考までに多数決によって計画を決定してはいけない例を私の研究のPRも含めて示しておきます。

私の専門は岩盤力学です。したがってトンネルや地下発電所等の工事現場に行く事が良くあります。したがって地下空間の神秘性や幻想性を長年にわたり体験してきました。その体験から、神戸六甲山の地下空間にシンフォニーホール等を含むアート・コンプレックスの建設を提案しています。このプロジェクトは地域住民からは絶対に提案されません。もし地域住民が提案するとすれば、たとえば港の突堤の先端にランドマークとし

てのシンフォニーホールが提案されるでしょう。なぜなら、一般の人達はシドニーのオペラハウスを知っているからです。しかしそれでは世界に対して新しい情報の発信基地にはなりません。

人間の発想は体験から来るものだと思います。地下空間を見た事の無い、あるいは、体験した事の無い人から地下空間の利用に関する発想を期待するのは無理だと思います。このように考えると、専門家が計画のリーダーシップをとることがいかに重要かということがお分かり頂けると思います。

しかし、ここで重要な事は、まず、土木技術者が一般の人達にも理解できる言葉でその計画の基になる科学的根拠を説明することだと思います。従来土木技術者は黙々と仕事に従事し、あまりPRは上手でなかったと思います。しかしこれからは、自分達のやっていることを一般の人達にも分かるように説明し理解を求めるように心がけなければならないと思います。

広土会のメンバーもすでに3000名を超えていると伺います。そのメンバーがそれぞれ土木の本来の姿を正しくPRすれば土木のイメージも変わってくるように思います。そして土木の使命とそのロマンを理解してもらえらるなら、現在の若者ももっと土木に魅力を感じ、それを自分の一生の仕事にするはずで。土木屋の息子が土木屋になっている例は多くあります。私もその例です。これは、身近に土木を知る機会があり、それが土木は面白そうだと思うせるのだと思います。土木の魅力に引かれて一人でも多くの若者が広工大の門を叩き、土木工学の勉強を始めてくれることを願っています。そのためにも広土会会員の皆様は土木のPRを御願い致します。



新任の先生より一言



新任挨拶

建設工学科・教授
米倉 亜州夫

平成11年4月から建設工学科でお世話になっております。昨年3月までは広島大学第四類（建設系）に勤務しておりました。私は昭和40年に山口大学を卒業し、昭和42年広島大学大学院を修了後阪神高速道路公団に1年間勤務後、広島大学でコンクリートおよび鉄筋コンクリートの教育と研究に携わってきました。途中4年間は、東京工業大学で助手として勤務していましたが、合計32年間、働いてきたことになります。幸い、広島工業大学でこれから約10年間、勤務できると思われますが、大変光栄なことだと感謝しております。

私は昭和43年から2年間程度は、広島工大のコンクリート実験の授業のお手伝いを河内先生のもとでさせていただいたことがあります。また、平成7年には学部のコンクリート工学の講義、平成8～10年には大学院の講義（コンクリート材料学特論）を非常勤講師として担当させていただきました。

今まで、コンクリートの乾燥収縮やクリープ、コンクリートの流動性、中性化、鉄筋腐食やアルカリ骨材反応を生じた鉄筋コンクリート柱の研究、FRPを用いたプレストレストコンクリートやコンクリートを鋼管に充填した三軸拘束部材を用いた合成構造等の研究を行ってきましたが、これからも、これらの研究を継続していくとともに、近年、社会的に問題となっていますコンクリート構造物の劣化、それらの構造物の補修補強方法、資源の有効利用などについて研究していく所存です。

また、広土会の皆様方とも早く知り合いになりたいと思いますので、機会あることにお目にかかりたいと思いますし、大学の方にもお越しいただければ幸いです。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。



新任挨拶

建設工学科・助教授
岩井 哲

前回の広土会新聞第4号が発行された直後の、今からほぼ2年前に当たる平成10年4月に就任しました。その以前は京都大学防災研究所に勤めており、教育と研究の比率は、研究の方が高かったように思われます。今は両者の比率が逆転して、どちらが大変かと言えば、何とも比較のしようがないというのが正直な気持ちです。研究も同じようなものと言えますが、教育の方は更に「見通しが立てられそうできて、実はなかなか思う通りには行ってくれない」という感じを抱くようになりました。

建築の耐震構造が私の元々の専門分野ですが、前職との関わりで都市防災をもう一つのテーマに掲げています。昨年6月末に広島工大構で発生した土石流災害には一種の使命感を感じて取り組みつつあります。何分、性格が一つのことだけにめり込んでいくタイプではないので、ゆっくりとマイペースで行きたいと思いつつも、あくせく動いているというのが現状です。

学生には、現在・将来とも、何事にも興味を持って取り組んで欲しいと願っています。集中力も、仕事にかける丁寧さも、すべて自分のやっているそれが面白いと思えることで持続できるものと信ずるからです。「やる気」だけはひとに教えられないと思うので、各人の自発性をうまく導ければ最高の満足感を得られそうな気がしています。



新任挨拶

建設工学科・講師
石井 義裕

平成10年4月に建設工学科の専任講師として着任しました。着任より既に2年が過ぎましたが、私の紹介をかねて、新任のご挨拶を致します。

本学に来る前は大阪大学で8年間研究・教育活動に謹んで参りました。専門分野は水工学です。水工学は水理学・河川工学・水文学等も範疇に入れ、より工学的に扱う分野だと思っています。私自身は従来より地下水・土壌汚染の浄化の物理的機構や、開水路乱流の力学的役割に関する研究を行ってきました。現在は、これらの研究テーマに加えて、広島地域におけるヒエ

トアイランド現象と熱・大気環境の数値シミュレーションに取り組んでいます。

また、水理学を中心に講義を行っていますが、従来より水理学は理解し難い、取り付き難い科目だと言われてきました。式を一切用いないで水理学を扱うことは不可能だとしても、出来るだけ難しい表現は避けながら、少しでも理解が深まるようになればと思って、授業の準備を行っている今日この頃です。

大学だより



拝啓 広土会の皆さん

平成11年6月末豪雨災害調査委員会
委員長（教授） 吉國 洋

昨年はY ? Kに象徴される混沌の1年でしたけれども、節目の2000年を恙なく迎えられ、希望を新たに毎日を送っておられることと存じます。建設工学科にとりまして、昨年は慌ただしい1年でした。その原因の一つが豪雨災害でした。

周知のように、平成11年6月29日、広島市とその周辺で、梅雨前線の活動に伴う豪雨により31人もの犠牲者を出す災害が発生しました。有史以来、広島は水災害と土砂災害に悩まされてきました。でも、最近、気象予測やダム管理が確かに行えるようになり、住民は大きな河川の洪水の恐怖から解放されたかに見えます。しかし、小さな川は以前と変わらず牙を剥きますし、豪雨災害、とりわけ土砂災害は年々激しさを増していて、一年に二度も三度も避難しなければならない年もあります。昨年がそうでした。

このたびの災害では、特に広島工業大学のある佐伯区の被害が甚大で、広島工大の西を流れる小さな川の屋代川筋でも、極楽寺山の頂上を出発点にした土石流が発生しました。すぐに工大の体育館が避難場所として開放され、多くの学生たちが、泥んこになりながら、救助活動に自発的に参加し、頑張りました。彼らの中に芽生えつつある建設技術者のスピリッツが視座を許さなかったのでありましょう。

建設工学科では、災害発生と同時に、豪雨災害調査研究委員会を発足させました。そして、8月30日にその中間報告を広島校舎で行い、大きな反響があったと自負しております。また、平成12年3月22日には、同じ広島校舎で最終報告会を開き、豪雨被害を小さくするための提案を行う予定にしております。

一方で、災害体験の語り継ぎと住民の防災能力を高めるために、委員会は体験文集を編集出版し、印刷物とCDの形で無料にて提供しております。希望される方がございましたら、ハガキにて申し入れて下さい。数に限りがございますので、その折には、ご容赦下さい。

ここに、建設工学科の活動の一端を災害調査に関連してご報告致しました。なお、添載の写真は屋代川の土石流痕を見学する学生たちです。

それでは、やがてやって来る新しい世紀に向けて、広土会の皆様のご発展をお祈りいたします。

平成12年1月24日



力学の理解と学習意欲促進のための教育支援システムの導入



浅野照雄（建築工学コース）

広島工業大学工学部建設工学科では、平成11年度から力学の理解と学習意欲の増進を支援する目的として小型模型実験装置と実験及びシミュレーション結果の画面表示ソフトからなるシステムを授業に導入することになった。装置の製作及びソフトの開発は広島市の愛明技研㈱と共同で行った。なお、本シス

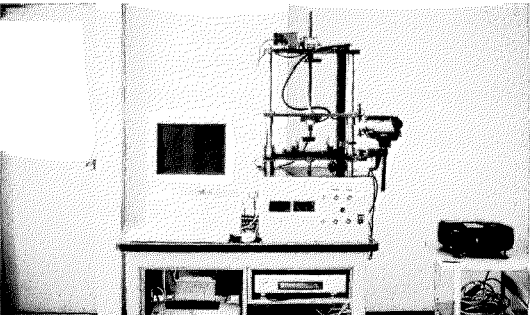
テムは日本私立学校振興・共済事業団より「特色ある教育研究の推進」において補助を受けている。

本学科では、従来から土木・建築技術者として修得しておかねばならない重要科目の一つである構造力学の教育に力を注いで来たが、必ずしも十分な成果を収めることができず、また一方で、学生の学力・能力などの多様化に対応する教育を考える必要があり、教育の根本的見直しが必要となっている。その一環として、授業に実験とコンピュータ解析を導入して、概念のイメージ化を容易にして、分かり易い力学教育を目指すことを考え実施することになった。

従来、講義では黒板以外に、OHPやビデオなどを用いて、分かり易い授業を教員が工夫してきた。また、講義以外に演習や学生実験を行って理論の内容が理解出来るように配慮してきた。しかし、講義・演習・実験が互いに連携して効果を十分発揮しているとはいえない状況であった。その原因の一つに、これらが実施される時期にタイムラグがあり、そのために理論の概念の理解が十分出来ないのではないかと考えられる。そこで、これらをつ一つの教室の中で行えるシステムを導入することにした。すなわち、概念の理解の上で重要な役割をするものと考えられる。そこで、小型模型実験装置およびこれと連動したコンピュータ解析ソフトを講義室に用意し、簡単な模型実験によって得られる現象とそれを立証するコンピュータ解析結果を大きなスクリーン上に投影することによって、学生が講義内容をより現実的なものとして捉え、理論の中に含まれる力学的概念を視覚的に理解できるようになるものと考えている。

具体的にシステムの概要を述べると、「梁」「トラス」「ラーメン」「有孔板」の模型に対する載荷試験、「部材」の座屈試験などを行い、それらの変形状態を断面力と歪ゲージや理論により求められる応力度分布と共に大型スクリーン上に表示する。学生の注意を引かせるために、荷重の増加に対する断面力や応力度の変化を時々刻々見られるような「動的表現」や、また、応力度の引張・圧縮の区別をするための「色彩表現」を導入した。さらに、部材断面のパラメータを自由に換えられるようにして、「変形」に対する「剛性」の効果をシミュレーションの結果として画像表示することも出来る。このようにして、構造物の力の流れや働きを視覚的に捉えられ、学生が力をイメージすることに慣れてくることが期待できる。

学生の勉強意欲の促進は、授業の理解が基本的には必要である。本システムがそのために利用されるような内容にするために、今後実施した状況を見ながら、更に改良を図っていく所存である。



力学教育支援システム

平成11年度就職委員始末記



就職委員
島 重章（都市工学コース）

土木工学科（来年度から建設工学科となるが）4年次学生の就職について、この1年間の活動私見を述べてみよう。何はともあれ、今年がいかに大変な就職難の年であったかは、どのデータを広げて見ても一目瞭然である。特に、求人数が最近5年間の中で最低であった。12月末までのデータは、平成10年度の求人数が全学で9500件、求人数が8000人であったが、平成11年度には求人数が全学で2300件、求人数が5400人である。これが全学4年次生約1000名に対しての数である。

この中で、土木工学科の就職については、都市工学コース（土木系）90名（含む女子2名）および建築工学コース58名（含む女子12名）を、私と浅野先生とで担当した。開始は早く、前年の3月から内定が出る変則対応から開始したが、5、6月のピーク時に試験を受けた学生の約半数が不採用となり、この年の厳しさをまろに受けたスタートであった。それは、各企業の採用数が大幅に激減したためであったことと、やる気のあるしっ

道路埋設指針 建設大臣認定擁壁

PCボックスカルバート ザ・ウォール (H=5.0m)

マシノ工業株式会社

本社 〒733-0012 広島市西区中広町3-25-18 (082) 233-0111(代)
福山支店 〒720-0805 福山市御門町2-5-39 (0849) 25-8855(代)
山口支店 〒753-0002 山口県吉敷郡小郡町津市1130 (0839) 73-3533(代)
山陰支店 〒695-0003 島根県江津市松川町下河戸188 (0855) 55-0124(代)
本店 〒699-5133 島根県益田市神田町口615 (0856) 25-2380(代)
工場 広島・江津・安富

環境と人との和の創造

株式会社 和田組
一級建築士事務所

有限会社 ワダテクノス

代表取締役 和田 一雄
昭和47年土木工学科卒

石田 博朗 小南 孝晴 米近 貢
昭和47年電気工学科卒 昭和48年土木工学科卒 昭和55年建築学科卒

WADA GUMI CO.,LTD HARMONY WITH NATURE

☎739-1804 広島県高田郡高宮町房後125-20
TEL(0826)57-1314(代) FAX(0826)57-0400

次代のニーズに 挑戦する

占部建設工業株式會社

■本社/〒720-0816 広島県福山市地吹町18番16号 TEL (0849) 22-1234(代)・FAX22-1276
■広島支店/〒738-0004 広島県廿日市市松尾2丁目8-8 TEL (0839) 22-1224 ・FAX32-8779
■営業所/〒715-0019 岡山県井原市井原町154-1 TEL (0866) 62-1254 ・FAX02-8363

かりした学生の採用を第1条件としたためである。

そのことに対応するために採った方針は、全国系でやっている学生と地元で活躍する学生に分けることであった。結果的には、地元志向が多くなったようであるが、地元で技術を育てる企業への学生の就職は、地方大学として大きな意義を持つと考えている。このことが、その後の求人と学生の就職志向を結びつけるのにかなり効を奏したようである。その背景には、今までの卒業生の大きな力があつたことをここに感謝し、採用していただいた各企業においては、更なる後輩の指導をお願いしたい。

結果は、以下に一覧表に示したので参照されたい。1月末で22名の未内定者（進学希望者を含む）を数えるに至った。各学生の内定先には規模の大小があるものの、更に技術を習得して設計施工管理に習熟した、はつらつとした、打てば響く建設技術者に成らんことを、就職委員の一人として祈っている。

平成11年度土木工学科応募状況					
平成12年1月20日現在					
大学院			土木工学専攻	(都市工学)	(建築工学)
求 人	企業数	学 科	71		
		専攻不問	171		
	求人数	専 攻	119		
		専攻不問	369		
在籍者数			17	13	4
企業内定数			14	9	3
官公庁内定数			3	3	0
未内定数			2	1	1
内定率（％）			88.2	92.3	75.0
工学部			土木工学科	(都市工学)	(建築工学)
求 人	企業数	学 科	756	412	344
		学科不問	1156		
	求人数	学 科	1191	623	568
		学科不問	2563		
在籍者数			148(14)	90(2)	58(12)
企業内定数			110(11)	73(1)	37(8)
官公庁内定数			5	4	1
進学内定数			11(1)	5(1)	6(2)
内定数合計			126(12)	82(2)	44(10)
未内定数			22(2)	8	14(2)
内定率（％）			85.1	91.1	75.8

在学生より一言

紙屋町交差点地下街工事見学会

建設工学科2年 杉田 知久

12月2日、我々は紙屋町地下街工事の見学を行いました。これは建設工学科3年生を対象とした、地下工事の見学会です。その概要を述べておくと、平成7年10月から起工されており、紙屋町の十字路の地下に、地下街と駐車場を構築し都市機能の充実化、交通機能の改善と強化、そして行政、文化、商業施設等への利便性の向上を図ります。これは、全体施設面積としては、24930㎡もの大プロジェクトであり、今年度中の完成を目標としています。

見学会はまず事務所で説明会があり、今までの施工内容とこれからの施工内容を聞き、ビデオによるわかりやすい説明等もありました。その後、皆ヘルメットをかぶり、いざ現場へ！(大勢のメット野郎が集団で、紙屋町をうろついたのはかなり異様だったのでは?)とにかく地下へ降りてみると、わずか数センチの覆工板の下に、とても広い空間ができているとは、思いもせず驚きました。現在、躯体構築と支保工撤去の段階でまだ、地下1階2階が吹抜になっており、鉄鋼やコンクリートがむき出しで、現場の実感がわきました。参加者からは、質問が絶えずあり、被圧地下水遮断の方法や、広島独特の土質ならではの、問題点、そして対策法等、非常に興味深い話をたくさん聞くことができました。

最後にこの見学会を終えて私自身、身近な現場を考える良い機会であったと、思います。今まで、ただ「工事しているな」と、思っていたがその内部では、どのような施工をしているのか、どのような配慮をしているのか?気になるようになりました。今後、自分自身の役に立つよう活用したいです。

土砂災害を体験して

建設工学科2年 広居 克哉

6月29日、我々はまれに見る集中豪雨と土砂くすれに遭いました、とても身近な所も被害をうけました。今まで災害とは直接は無関係だった自分が現場に立っていたことに当時大変おどろいたものです。住んでいる所の近くが崖崩れをおこすのを見たときは目を丸くしました。もちろん近所周辺被害をうけました。自分も例外ではありません。普段全く関わり合いの無かった近所の人達と協力して泥かきやバケツリレーなどしたりしました。家の周りや道の大まかな土砂をとり除くだけで1日仕事でした。当然みんな泥だらけになって一生懸命に作業していました。そこには一種の連帯感があって、暗くなりがちな気分も少し華やிடような気がします。

土砂がきれいに除去されるのに、災害がおきてから非常に日数がかかりました。作業には県や業者も協力してくれて重機も起用されました。しかし、人手が足りる訳でもなく広島工業大学からもボランティアを募ることになりました。これにはたくさんの方が参加してくれました。大学周辺の民家の土砂かきの手伝いをしてもらって非常に助かったと思います。何よりもその心意気自分はうれしかったです。

この土砂災害を体験して、改めて恐ろしいものであることが身にしみました。同時に事前に何らかの対処が出来たはずだと思うのです。この災害をふまえてこの度の被害を越えるような事を無くしていかなければいけないと思います。

後輩達へ

大学院土木工学専攻2年次生 竹口 知也

「なにか、建設関係の勉強をして、建設関係の仕事につきたい」という、かなり漠然とした気持ちで広島工業大学土木工学科に入学してから、早くも6年という歳月が経ってしまいました。私は学部 の4年間、公式野球部に所属し好きな野球を楽しみ、大学院に進んでからは研究に毎日取り組み、自分にとって非常に充実し、また貴重な時間を過ごしてきたと思っています。大学生活の中でサークル活動やTA(ティーチングアシスタント)を通して多くの後輩たちと接してきましたが、ぜひ彼らに提言したいことがあります。

私はTAとして後輩たちの力学の講義に助手として参加してきました。そこでいつも感じたことは「高校生までの勉強のやり方をひきずっているな」ということでした。学部生たちはよく「この問題は期末試験にでるんですか?」と聞いてきます。おそらくその問題の解き方を1から10まで丸暗記してくるつもりなのでしょう。しかし力学の期末試験に出される問題は、基本的な理論を理解し、最低限の公式さえ覚えておけば、どのような問題が出てても対応できるわけです。私も入学したころは「大学の勉強と高校までの勉強は違う」ということをよく言われましたが、その意味がやっと理解できたのは4年の卒業研究をはじめたころでした。つまり大学の勉強は何でも模範解答が用意されているわけではないということです。後輩の皆さんにはぜひ「大学の勉強とは何なのか」ということをもう一度考えてほしいと思います。

贈る言葉

大学院土木工学専攻2年次生 山根 裕市

私が広島工業大学土木工学科に入学して早いもので6年の歳月が過ぎようとしています。この6年間、私にとって多くのものを得られたと思います。なかでも、すばらしい諸先輩方との出会いは、私にとって大きな財産だと思っています。私はあの先輩のようにになりたい、後輩に親しまれるような先輩になりたいと思い、自分なりに努力はしてきたつもりです。これから、工大で学ぶ後輩達もそんな目標となる先輩を見つけて切磋琢磨してほしいと思います。また、私は周りに陽気で、利発な同輩や、後輩が多かったため、楽しい大学生活を送る事ができたと思っています。この大学生活で得たものは、生涯の糧となり、財産となると思います。私も大きな財産を得られたと思っています。私の場合、それが人との出会いでしたが、皆さんは皆さんの財産を見つけて、大学生活を無駄の無いように過ごして欲しいと思います。

最後になりましたが、終始御指導、御鞭撻を頂きました諸先生方や先輩、同輩、後輩の皆様 に心より感謝致します。

大学祭を終えて

建設工学科2年 広土会幹事長 佐藤 賢和

今年、広島では6月29日の夕刻、広島市とその周辺で集中豪雨により各地で土石流が起きました。広島工業大学のすぐ側でも土石流が起こり、次の日に、大学に来てみると、それは悲惨なものでした。広島は戦前から戦後にかけても、水災害と土砂災害に悩まされて来ているみたいです。今回、地元で起きてしまった土砂災害に関して、「大学祭学科展」として取り組んでみました所、入場者はタイムリーなこともあって、300人以上もの人が、見に来てくれました。内容は災害が起きた理由、防災と避災に関して、現場写真、航空写真、降雨量図などでしたが、技術的な部分や、土木の役割をつたえることは難しく、しかも、量の多いものでした。しかし、来場者は「この問題は難しい」の一言に、終わらずに、身近に起こったことも重なって真剣に考えられている方が多く、貴重な意見や質問をたくさん頂きました。また一般の方々にも災害に関して今一度考え直すきっかけとなったことが幸いです。

災害が起きて、だいぶたちますが、解決できた問題、新たに発生した問題があると思います。我々、広土会は毎年、工大祭の中で常に違うことを、やり続けていることを誇りに思っています。また多くの先生やOＢの方々にご協力頂きありがとうございます。今後とも広土会をよろしく願ひします。

支部だより



近況便り

関東支部長・千葉県土木部 梶野良夫(2期生)

広土会会員の皆様、全国各地でご健勝のことと察します。私は、工大を卒業してから30年が経過したことになります。例えば、私たち団塊の世代は人数が多いせいで受験戦争やら競争に明け暮れて過ごしましたが、幸いにも就職に関しては、恵まれていたような気がします。昨今は時代が変わって、少子化で、受験戦争ではなく学校の存続が問題視されているそうです。ただ、今の若い人は受験については楽になりましたが、就職についてはこの数年の情勢からして困難になって、誰でも就職できる情勢ではなくなりました。世の中、「人間万事塞翁が馬」とか、昔の人はよくいったものです。30年前は、大企業はいつでも存続し、安定成長するものだと思っていましたが、昨今そんなものではないことが判明しました。あの銀行、証券会社でさえ倒産する世です。今、最高であるものはこれから落ち目だと考えることも見方のひとつではないでしょうか。

さて、私は学生時代からスポーツ、陸上中長距離競技を続けていましたが、中年になってからは健康目的に陸上に限らず登山、ハイキング、ゴルフ、スキー、自転車、水泳と個人でできる手軽な運動を楽しんでいます。30年前は、大企業はいつでも存続し、安定成長するものだと思っていましたが、昨今そんなものではないことが判明しました。あの銀行、証券会社でさえ倒産する世です。今、最高であるものはこれから落ち目だと考えることも見方のひとつではないでしょうか。



地球環境と共に生きる

営業案内

■法面保護工事

●厚層基材吹付工

●種子吹付工

●連綿繊維補強土工

●簡易吹付法枠工

●ロックボルト工

●客土吹付工

●モルタル・コンクリート吹付工

●吹付法枠工

●落石防止網工

●立体ネット併用客土吹付工

●フィットフレーム工

●グラウンドアンカー工

■造園工事

■地盤改良工事

●グラウト注入工

●修景工事

●カラセラ工

■人工芝・植生土のう製造・販売

SANYO

サンヨー緑化産業株式会社

本社 広島市西区庚午中3丁目2番9号 ☎(082)272-2111 ☎733-0822

広島営業所 広島市安佐南区大塚西6丁目5番10号 ☎(082)849-1100 ☎731-3167

営業所 福山・山口・松江・浜田・北九州・熊本

構造と環境の
調和を求めて

基礎

フーチング

軟弱地盤

改良体

鋼管杭

支持層

地盤改良複合鋼管ぐいイメージ図

建設コンサルタント

DAICHI

株式会社

コンサルタンツ大地

取締役社長 坂手道明

〒733-0812 広島市西区己斐本町2-20-16
TEL 082-273-1471 / FAX 082-273-1473

洋々と伸びのびと夢をかたちにー

洋伸建設株式会社

本社 広島市西区西観音町2番1号
電話 (082)292-8737(代表)

営業所 岡山、福山、呉、東広島、広島第一
広島第二、山口、四国

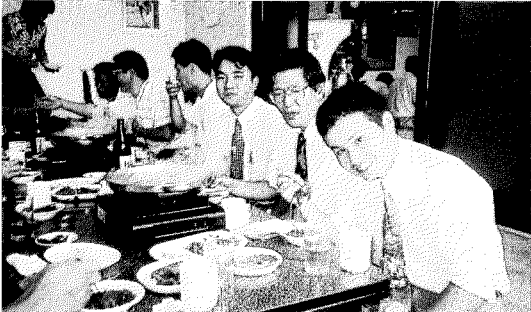
日本に一番近い外国、韓国

関東支部・サンフロー株式会社
桧垣 誠（18期生）

私が初めて訪韓したのは、1997年の春でした。金浦空港に降り立ち、宿泊するホテルに向かうリムジンバスの窓から外を見ると、そこから目に入る物は、町にあふれかえるハングル文字でした。ハングル文字が全く判らない私にとって、日本国内でたまに見かけるハングル文字にはほとんど気にも掛けていませんでしたが、見るもの全てがハングル文字だと、外国人を寄せ付けない威圧感さえ感じました。果たしてこの国の人々とうまく仕事をやっていけるだろうか、との思いで出張した事を今でも覚えています。

ところで、何をするために韓国に行ったかと言いますと、当社は、コンクリートを練り混ぜる際に添加する、化学混和剤（減水剤）の販売を行っており、特殊コンクリートにおける日本の高い技術をこの国でも使用して頂くこと、韓国の混和剤販売会社と代理店契約を結び、ゼネコン、セメントメーカーおよび生コン工場にPRをし、実際にコンクリートを練りました。現在までに年3〜4回程度の頻度で訪韓しています。空港で、ホテルで、町で、韓国人と間違えられて話しかけられることもたまにありました。使う言葉は違っても、変形はよく似た韓国人と日本人です。初めて訪韓した時には、見えない壁を感じましたが、より良いコンクリートを製造しようとする目的は共通しており、お互いを理解し合うのにそう時間はかかりませんでした。今では、現地の韓国人スタッフと馬鹿な事を言い合いながら、一緒に仕事をしています。

日本に一番近い国韓国。しかし、暗い過去を引きずり心の距離は遠かった韓国も、今では一番近い外国、韓国となりました。



韓国人スタッフと食事する私（一番手前が私です）



「約30年を振り返って」

関西支部長・西宮市土木課
岩崎完爾（旧姓：島津）
（2期生）

学生生活を終え広島を後にして約30年も過ぎていますが、学生の頃の事を昨日のように思っているところがあります。

会から寄稿依頼がありましたので、2000年の新春ですので自身の歩みを少し顧みることにしました。

入学の頃、モニカ食堂での皿洗いなどのアルバイトに精を出していましたが、飲み会に加わるようになって友人が増え、遊びを学び、世の中を広く見られるようになる。それが学生の本領と言う人がいて、一層よく遊び、仲良く遊びの4年間でした。学内では、全ての先生があらゆる機会を捕らえて、学生を育てようとする姿勢とか、人間の包容力の大きさを感じていました。

例えば、体育大会では「土木工学科が必ず優勝せよ」との櫻井先生のけしかけに乗り、全員で頑張る。又、同先生は教務部長の立場から「留年者を多く出せない」と言われれば、それなりの対策をしたと思っています。

又ある時、夕方から珍しく雪が降って来たので、明日のコンクリートの試験勉強を提出して友人と雪見酒と洒落込むことになり、流川へ出掛ける途中の楽々園駅で、コンクリートの米田先生と鉢合わせになって困惑していたら、先生の方から「ビールを飲みに行こう」と誘って頂いた。あのシウマイは格別美味しく、今も感謝しています。

それから、「広土会」の発足、学生の中四国土木学科学生連合会（名称間違ひならば深謝）への加盟や全国土木学科学生連合会（名称間違ひならば深謝）の全国大会への初参加をしました。

後年、後輩諸氏が全国大会を開催されたと聞いて、一人で感激しました。

社会は高度経済成長を続け、基盤整備が急速に拡大され、住宅等のスプロール化が急増している時代で、大阪万国博覧会が開催された昭和45年春に就職し、道路構造物を造りたいという強い思いで、道路築造を生きがいにしていたように思います。

昭和50年代には、大規模住宅開発に関係して行くことで、安全・安心の街づくりに道路網整備の重要性を痛感して、努めて取り組んでいくことになりました。そして、昭和80年代には、全体的な環境とか地域文化の継承なども配慮した道路網整備が求められていると考えるようになり、面的な街づくりの検討を一定進めていました。

平成7年1月17日午前5時46分、マグニチュード7.2の阪神淡路大震災が発生し、兵庫県下では6千余名の人命を失うとともに長い歳月を要して築かれてきた街が一瞬で崩壊しました。

震災からの復旧・復興に対して、多くの方々から温かい支援を受けまして、一定の回復を見られるようになり、今年、5回目の慰霊が催される。そして、自身は現在、震災復興市街地再開発事業を担当しています。

これまでの人生の中で、大変悲しく残念なこともありましたがそれは友人を亡くしたことです。その一人は大橋正勝君です。大橋君には、無欲で、純粋な生き方を身をもって教えてもらい深く感謝しています。ご遺族が分かれば墓前でご冥福を祈るとともに、お礼を言いたいと思っています。

今、家庭を持ち、家族で参加する社会生活に充実した楽しさを味わいながら、学生時の夢を見失うことなく、自身に課せられたポジションの遂行に努めたいと考えています。



大田隆三君を偲んで

関西支部・丸誠重工業株
久保田政壽（1期生）

広土会関西支部初代支部長の太田隆三君が他界して、早3年目の春を迎えようとしている。

大田君は関西支部発足以来、亡くなる迄の26年間支部長として広土会発展の為に一生懸命尽力した。

同期生として、また友人の一人として彼を偲び、彼の功績に対して敬意を表したい。

私と大田君の付き合いは大学4年の時、卒論の「橋梁設計」を、恩師である故桜井季男先生のもとで学んだ頃から始まった。その後、桜井先生の紹介で共に大阪の橋梁メーカーに就職した事によって、親交が続いた。

桜井先生は、折にふれて「土木の人間は協調性や対人関係が大切であり、かつ積極的でなければならない」とおっしゃられたが、彼は真に先生の御言葉どおりの人物であったように思う。彼の天性の明るさと、めんどろ見の良い積極的な対人関係を先生は大変気に入られたようで、彼の結婚式で主賓として挨拶にたれた先生が、祝辞の中でその点について強い口調で述べられたのを今でも印象深く覚えている。

広土会関西支部は、一期生が卒業して3年目の昭和46年7月に、桜井季男・岡野兼夫両先生に御出席いただいて、大阪難波のピアホール「ミュンヘン」で発会式を行った。卒業生は3期生迄であったが大田君の呼びかけで大ぜいが出席し盛大に行なわれた。

以後、毎年8月に同場所で開催が行なわれるようになった。（写真は昭和57年の総会で鈴木健夫先生を囲んで一期生の3人。左から久保田、大田、鈴木先生、川上の各氏）

翌年の春には、これも大田君の発案で新入社員の歓迎会を企画し、花見の名所「夙川公園」の夙川堤で、にぎやかに宴会を行った。

この花見も以後恒例となり、多くの卒業生や又、先生方にも御出席いただいた。花見は、屋前からの酒宴のせいか脱線することも多く、帰宅が深夜になる事もあったが今は楽しい思い出となっている。

昭和51年4月に、桜井季男先生が亡くなられ、5月5日に明石市の須摩寺にて山梨大・神戸大・広島大の3大学合同主催の葬儀がとり行なわれた。

この時のことは、大田君自身が広土会誌第9号に「故桜井先生葬儀のあと仕末記」と題して投稿している。葬儀のときも、後に先生の命日に有志で行なった墓参も常に大田君が率先して動いた。

関西支部が発足以来、夏の総会、春の新入社員歓迎花見の大行事を多数の参加者によって続けてこれたのも、大田君の支部活動に対する変わらぬ情熱があったればこそと思う。

平成9年4月に行なわれた花見で彼に会ったのが最後となり、2ヶ月後の6月5日に大田君は帰らぬ人となった。

現支部長の岩崎君（2期生）より「広土会新聞に大田さんの事を書いて下さい」と電話をもらった時一瞬躊躇した。文章を書くのが苦手な事以上に、大田君の突然の死が昨日の事のようにあり、いまだ心の整理がついていなかったからである。しかし生前彼がくれた親交に対して感謝の気持ちを伝えるすべの無い事を思い書かせていただいた。ここに30年間の友情に感謝し、御冥福をお祈り致します。

（2000年2月記）



故大田隆三君（左から2人目）との思い出



広土会の皆様へ

岡山支部長・岡山県土木部
青江邦男（1期生）

2000年という歴史的な節目の年を迎え、会員の皆様方には公私とも心を新たにしていることでありましょう。

私は今、国体の関係の仕事をしています。国体と言っても分からない方があるかも知れませんが、平成17年に岡山で開催される、国民体育大会の事です。私が配属された時は、近郊の山を造成して陸上競技場を新設する予定で、関連工事も含めて700億円という事で、大張り切りで赴任したのですけれども、この県でも財政事情が悪くなっているように、岡山県でも、全国ワースト1というような状態の中で、やむなく場所を変更して、現在の競技場を改修して使用するということになりました。こうなると、元の予定地の人たちは黙っていませんで、慰謝料裁判状態になりまして、この後始末は未だに解決しておりません。（離婚とか婚約不履行とかはよほどのことがなり限らないほうがいいでしょう）

掘削土量400万立方メートルのうち、250万立方メートルの最硬岩の掘削を3年で完成するにはどうするか、真剣に検討しておりました。ところが先程の事情で露と消えました。そのかわり現在は埋蔵文化財の発掘をやっております、竹べらとじょれんで調査している片手間のようなことをしておりますが、やはり工期は気になります。（400万立方メートルと竹べらではあまりに違いすぎる。）

どちらにしても、平成17年には選手や観覧者が気持ちよく、安全に参加できるよう、気を取り直して頑張っていくと思っております。とりとめのないことを書きましたがお許し下さい。

終わりに、広島工業大学と広土会及び会員の皆様方の益々の発展をお祈りしております。



岡山市議会議員選挙を通じて
学んだこと

岡山支部・岡山市議会議員
和気たけし（2期生）

広土会会員の皆様方はご健勝にて、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

昨年の記念総会で思ひかけず、大変な激励を賜り誠にありがとうございました。そして、皆様方の力強いご支援のお陰を持ちまして当選させていただくことができました心から感謝申し上げます。

私は、この度の選挙を通じ、様々な出会いの中で多くの人に支えられ、助けられました。中でも、大学卒業以来ほとんど会うことのなかった、同級生や先輩、後輩、更には恩師の先生もまでもが、県内外から、心配をされ、わざわざ、陣中見舞いに来ていただきました。生涯忘れる事のできない思い出をたくさん頂きました。人の心の暖かさや、人情の濃さ、自分が思っている以上に自分の事を考えてくれる人の多さ等に接し、大きな感激でありました。当選させて頂いた喜びもさることながら、この感激を大きな財産として残すことができたことに感謝しているところです。

考えてみれば、昭和45年に土木工学科を卒業後、岡山市役所に奉職して以来、建設畑の行政一筋であり、全く、選挙に関わったこともなければ、他人の選挙を応援したこともない全くの素人が、とんでもないことを言い出したのであります。周囲の者が反対するのも当然のことです。

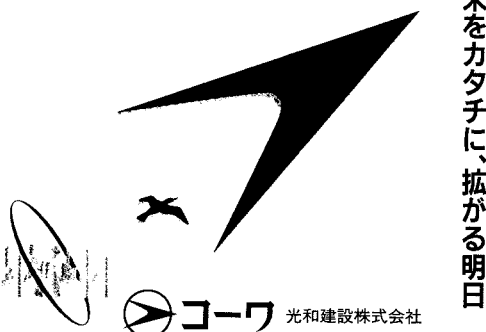
大きな組織の支援や、資金力のない普通のサラリーマンや公務員が選挙に出るのはきわめて難しい現実があります。だれ地の地盤を受け継ぐわけでもなく、そんな厳しい条件の中で、無謀とも言える決断であったと思います。しかし、この無謀な挑戦を本気で支えて頂きました皆様方のお気持ちを思うと胸が熱くなります。この場をお借りし改めて御礼申し上げます。



“高”環境づくり **フジタ**

広島支店/広島市中区中町8-6 tel(082)241-4131

明日の情報環境を創造する



未来をカタチに、拓がる明日

コーワ 光和建設株式会社

プレストレスト・コンクリート構造物、設計、施工

極東工業株式会社

代表取締役社長 澤井正壽

本社 広島市東区光町2丁目6番31号

支店 東京・大阪・広島・福岡

営業所 千葉・横浜・名古屋・神戸・四国・岡山・松江・鳥取
山口・北九州・大分・熊本・宮崎・長崎・鹿児島・沖縄
鹿児島・沖縄

工場 江津・大分・高宮

お一人お一人に十分なお礼を申し上げていないご無礼をお許しを頂きたいと思います。

今度は、私が広土会会員の皆様方に心を込めてお返しをしなければなりません立場と心得ております。

即ち、初心を、忘れることなく、選挙公約でありました市議会の改革、そして岡山市が、その場しのぎではなく、半永久的に、未来に存続していくために、今何をしなければならないのか、そして、何をすべきでないのか。真剣に考え、議場での質問を通じ、様々な提言をより積極的に行って参りたい。そのことこそが最も喜んでいただけるお返しに違いないと決意を新たにしています。

そして母校、広島工業大学の、卒業生の一人として、更に広土会の会員として、母校の名誉と誇りのために、理想を高く持ち続けた政治活動を目指すことを皆様方にお誓い申し上げます。

最後になりましたが、お役に立てそうな事がありましたら遠慮なくご相談をさせていただきたいと思います。そして今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、厳しいご意見や叱責を賜りますようお願い申し上げます。併せて会員各位のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。



我まち、徳のある山

山口支部長・徳山市土木課 渡辺 勉（6期生）

表題に書きましたように現在私は徳山市役所で林業行政に携わっていますので紹介します。

私が所属している林務係は、技術職員5名と事務職員1名で構成されています。

徳山市の森林、林業への取組みは①林業生産の振興として優良森林の造成や森林環境の整備は、市民の暮らしに大切であることから林家へ森林整備の重要性を呼びかけ、さらに国や県の各種施策を導入しています。②林業生産基盤の整備として労働環境を改善する上で、林道や作業道の整備の推進は、特に重要です。本市の林道として台帳に登録されているのは、平成10年度末、路線数53、延長101、503メートルで、うち舗装延長68.923メートル舗装率67.9%です。また、林道、作業道の開設にあたっても支援措置を行い、林家の経営意欲の向上に努めています。しかし、開設後、十分にその利用ができないまま放置されているものもあり、森林施業の推進とともに、今後の課題となっています。③林業経営基盤の整備として本市でも、他の市町村と同様、経営規模が零細で、林地が分散していることから森林施業は停滞の極みに達してきました。そこで停滞している林業経営を活性化するため、森林施業において優遇措置を受ける目的に、林業振興地域の指定を受けました。しかしながら、その計画も地域社会の進展の陰にあって、十分な実績があららず、事業推進にあたる関係の悩みの種となっています。④生活環境の整備とコミュニティの推進として最近、都市部を中心に、森に親しみ、自然とふれあうことによって、心豊かな人間性の回復や自然を愛する心を養おうとする気運が高まっています。このため、市が所有している公有林2,300ヘクタールの中から森林レクリエーションの場や市民ふれあいの森として提供するなど、森林の多目的利用に力を入れています。おわりに偏り過ぎた社会構造の中において人々は、生命産業である農業や林業をおろそかにして来たように思います。そこで今、最も大切なことは、人間は大自然の営みの中で生かされていることを認識することでしょう。



21世紀に向って

広島支部長・広島県土木建築部 景山 敏則（1期生）

一昨年7月に行われました「広土会創立30周年記念事業」におきましては、600名を超える会員の皆様の出席をいただき、無事、盛大に執り行うことができました、実行委員長として、感慨無量

なおもちでございました。会員皆様のご協力に対しまして、厚くお礼申し上げます。大変ありがとうございました。これから、40周年、50周年へと、益々、会員相互の親睦が図られることを祈念いたします。

さて、昨年6月の大雨あるいは台風18号により、広島市、呉市を中心に大きな被害が発生しました。特に6月の大雨では、死者31人、行方不明1人、負傷者54人、家屋の被害は4,700棟を超えました。会員の多くの皆様には、一日も早い災害復旧をめざされ、日夜、全力で取組んでおられることに対し敬意を表するとともに、防災機能や危機管理といった面での取り組みの重要性を再認識させられました。

いま、20世紀から21世紀へと時代は大きく変わろうとしています。建設関係に携わる私達にも、大きな変革の波が次から次へと押し寄せようとしています。

循環型社会の思想や社会全体で地球環境を守ろうとした、ゼロ・エミッションの考え方が普及し、ISO14001への取組みも益々広がってくると考えられます。

また、コスト縮減を図る手段として、入札・契約制度の手法においてVE方式が広まるなど、契約方式も大きく様変わりします。技術基準の考え方もこれまでの仕様規定から性能規定へと変わり、建設業ではISO9000シリーズが必須となると考えられます。

さらに、これからは、発注者、設計者、施工者の役割分担が再構築されます。特に、工事の発注者と施工者の間に入って、発注者の代理人として、工程、品質管理等を行うCM（コンストラクション・マネジメント）が、さらにマネジメントの範囲を広げたPM（プロジェクト・マネジメント）の導入に向けての検討がされております。

最後に、近年の経済不況が続くなかで、建設業は再編を必要とされております。「建設産業再生プログラム」では、これからの経営戦略としては、「選択と集中」による利益率の向上が重要だと云われています。そのためには、分社化、執行役員制度などの経営組織の革新と、異分野、異業種を含んだ企業との連携の強化が必要とされます。

取り留めのない話となりましたが、私達、「広土会」会員も、これらの大きな変革の波にもまれながらも、技術者としての果たすべき役割も今後、重要になってくるものと思っています。それには、まず、アンテナを高くして、新しい情報に常に耳を傾け、前向きに取組んで行く事が重要だと考えます。



『市民参加型社会に向けて －コンサルタントの立場から－』

広島支部・株荒谷建設コンサルタント 長谷山弘志（12期生）

公共事業を主な業務としている我々建設業界においては、(特に、私の場合は建設コンサルタントであるが)近年の社会情勢から出てきた『市民参加』という言葉に、仕事のあり方そのものが大きく左右されようとしている。本来、市民のために行われるはずの公共事業ではあるが、経済急成長の中で、いつのまにか想定した民意と実態とが大きく開いてしまい、一方で、市民の自主性が顕在化してきた結果、『市民参加』というキーワードが生まれたようである。いずれにしても、この低成長時代に、公共事業の本来のあり方を見据え、21世紀の市民参加型社会を構築していく中で、我々エンジニアに課せられる課題は大きいようである。

これまでの閉ざされた行政の世界が、情報公開という旗印の下に、公にさらされ、技術的根拠や事業の必要性も曖昧なものではなく、明快さが要求される。これまでのやり方では、通用しなくなるのである。そのためには、我々は、プロのエンジニアとしての自覚のもと、これまでの技術をさらに掘り下げるとともに、市民のニーズを的確に捉えられるように、多方面にアンテナを張った技術屋を目指す必要があると考える。特に、我々コンサルタントに問われることは、行政と市民の中間に立った視点での役割であり、これまでの行政に対するコンサルタントに加え、それと同時に、市民に対してもコンサルタントであることが必要となってくる。なぜ整備が必要なのか、どのような目的で、どれだけの効果が期待できるのか、それらを市民に明確に説明できるような設計が要求されるのである。しかし、現実にはまだ、模索段階であり、事業の手順、企画、調査、設計、整備、維持管理・運営等の各段階における市民参加のあり方が不明瞭であり、いろいろな思いで実験が繰り返されているのが実情のようである。

いずれにしても、これからの21世紀の市民参加型の社会に向けて、一過性のものではなく、永く持続できる文化社会を創造するために、公共事業を支えるわれわれエンジニアが個々のレベルをアップさせ、より高度な技術を身に付け、一人一人が考え行動することが何より大切であると考ええる。

『親子2代』 お世話様になります。

広島支部・広島市西区役所 野坂佳作（4期生）

私が広島工業大学土木工学科に入学したのが、昭和43年(1968年)4月、4期生として。2000－1968－4＝28、早いもので卒業後、28年の歳月が過ぎようとしているのですね！

私たちの卒業した時代は、『日本列島改造論』なるものにより、『イケイク』ブームにのって就職には事欠かない時代であったが、現在の不況は何時まで続くのやら？『フリーター』なる変な言葉（？）も納得！

ところで、私には2人の息子がいます。長男は文系に進み（2回生）現在愛媛県にいます。次男が今年、広島工業大学環境デザイン学科に入学出来る予定です。

（1月現在、指定校推薦で！）

私の場合の志望学科は、消去法で土木工学科を決めたような記憶がありますが。さて、次男の場合は、はたして、何に向い

ているのか、何がしたいのか、そしてどの学科を選べばよいのか資料を取って、あれこれ考えましたがいまいち『？』なのです。そうそう、島先生にご相談に行ってみよう。てなこと、いろいろご指導を受けやっと決めることができました。それに『入学後の心構え』を息子にご教示いただき、有り難うございました。「さ～て」これからが大変、大学生が2人！。何が大変かて『？』。当然、先立つもの『求む』無利子・無担保、有るとき払いの催促なしでご融資下さる方！

それは『みんな同じや～』

そうですね。仕方ない、私の小遣いを減らすのか？ お母さんがパートにでるのか？

息子がアルバイトで学資を稼ぐのか？ 思案中です。

ともあれ、親子2代で広島工業大学にお世話になります。今後とも宜しくお願い致します。



広土会氣質で羽搏く！

広島県北支部長・株和田組 和田一雄（4期生）

本年は、2000年という記念すべき年であり、夢と期待を乗せて21世紀を目前に控え新時代へのラナップとなる旅立ちであり、1000年に1度の大きな節目のミレニアムイヤーであります。「地球上の全てのものが生命を得ていた。」ということに感激し感謝の気持ちで正月を迎えられたことと思います。

昨年は、長引く景気低迷のなかで内外ともに厳しい社会情勢に明け暮れ、今急速に進む少子高齢化、高度情報化、行財政改革の推進、環境問題等、数多くの難問に直面しており、大きな変革期であります。

大学も変遷をしました。我々の時代は、土木工学科、現在は、建設工学科であります。しかし広土会は、発足以来同一名組織で、32年目を迎える今日、我々広土会、会員4,000名の恩師を始め在学生、先輩後輩そして同期生は、縦・横の繋がりを尚一層深めそれぞれの道で活躍されている会員皆さんの、人脈を多分に活用させていただき、地域社会に少しでも貢献できたらと思っています。

こんな時期だからこそ、この2000年という記念すべき年を、それぞれの心に残る年にするため、皆さん広土会氣質で大いに羽搏き、頑張ろうではありませんか……。

最後になりましたが新年のご挨拶を含め広土会の益々の発展と会員の皆様のご活躍、ご健勝とご多幸を祈念致します。

広島県東部支部新年会

支部構成人数：95名

支部結成年月日：H7年10月7日

支部の領域：福山、尾道、三原近郊の県東部地域

広島県東部支部・株スミダ 岩本正樹（3期生）

記念すべき2000年もスタートしました。広土会会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。

このところ、金融機関の破綻に代表されるように各種企業の倒産、リストラによる失業者の急増など、連日のように暗い記事が報道されています。こんな時代にこそ、皆さんの「広土会」があらゆる意味で、心の支えになってくれればと願っております。今後、広土会のますますの発展と、若い人達の積極的参加を期待しています。

さて、第4回目となりましたが、広島県東部支部、三原・本郷地区の新年会を、去る1月21日、三原市内において、古谷支部長にも参加していただき、開催しました。初参加者も含め、15名の会員が集合し、自己紹介、近況報告、そして大学の話など、交流を深め、なごやかなうちに終えることができました。

この会は、「広島県東部支部」の草の根活動的存在で、三原・本郷地区で、建設事業に携わっている者同志の技術や情報の交換の場であり、協力し合う集りです。この度の広土会新聞を通して1人でも多くの会員の参加を願っております。

最後に、会員の皆様のご活躍のご活躍と、ご健康をお祈り申し上げます。



写真最前列中央が筆者

昇り龍の2000年に

阿讃支部長・香川県土木部 松山憲一（1期生）

新春の書き出しとしては、少し暗いイメージになるのですが、今年は「20世紀最後」の年・「20世紀末」の年。最後とか世紀末と言うのは、何となく聞こえの良くない言葉ですね。

土木建設の世界においてもバブルがはじけ、不況の波が押し寄せている中で、リストラや倒産など、大変暗いニュースが多いように思われます。

そんな折しも昨年、二神先生を通じて、後輩のY君が訪ねて来ました。会社が倒産し、就職先を捜しており、間近に結婚も控えているとのことでした。

平成11年度・第8回広土会支部長会議報告

今年度の支部長会議は、7月17日(土)に広島工業大学広島校舎で行われた。

この会への出席者は次表の通りである。

支部長会議では、広土会規約に準じて本部から総会報告および

支部名	支部長・幹事	広土会30周年記念事業関係者	広島工業大学
関東支部	梶野 良夫 代理 松垣 誠	【実行委員長】 景山 敏則 【副委員長】	【会長】 皆田 理 【副会長】 浅野 照雄
関西支部	佐賀 勉	徳山 宏、宮田 宏昭	伊藤 秀敏
岡山支部	青江 邦夫	【総務】	【会計】 島 重章
鳥取支部	西藤 正和	狭戸尾 浩、三浦 勝行、奥川 浩、寺本 章、平賀 昭彦	【会計監査】 二神 種弘
島根支部	小糠 宏昭 幹事 藤井 昇	【祝賀会部会】	【幹事】 中山 隆弘
広島支部	景山 敏則	竹内 勝喜、出口 俊実、長谷川 和志、大野 平和、舩繁 昌志	村中 昭典
東北支部	和田 一雄	【講演会部会】	【学生幹事】 佐藤 賢和
関東支部	古谷秀次 幹事 浅野 仁司 幹事 松本 省三 幹事 鉄本 実	五弓 晃、尾山 政雄、荒谷 寿一、和田 敬二、長谷 康正	杉田 知久
愛媛支部	鴻海 茂彦	【記念誌部会】	
阿讃支部	松山 憲一	河原 不二夫、広本 忠典、村中 昭典	
山口支部	渡部 勉	【会計】	
九州支部	平川 敏郎	石井 卓郎、伊藤 岳司	
欠席者	梶野 良夫 西藤 正和 平川 敏郎	徳山 宏	

び各支部から活動報告が支部長・支部長代理の方からなされた。各支部ともに、年単位で支部総会および懇親会を開催し、技術交流や情報交換を行い、広土会活性化の動力源を担っていただいていることを実感した。一方、15期以降の会員は支部と疎遠になりがちであるとの報告もあった。

各支部から本部へは、「支部所属者名簿の充実」と支部総会で、「技術講演会の開催」等の要望があった。名簿については、当大学同窓会とタイアップしてさらに充実を図り、講演会の要望があれば内容に応じて講演者の人選（建設工学科教職員を中心に）等で協力する旨の返答が皆田会長よりなされた。

今年度の支部長会議では、広土会30周年記念事業の報告会が景山広島支部長を始め、各部会担当者から、記念講演会・30周年記念大懇親会・広土会創立30周年記念誌および会計報告がなされた。この事業は広土会広島支部を中心として、本部との連携の基に、平成9年6月の第1回協議会を皮切りに、6回の協議会と部会を通して細部にわたり事業内容の検討がなされ、平成10年7月18日(土)にリーガロイヤルホテルで挙行された。講演会では約300名、懇親会では、600余名の卒業生会員・学生幹事を始め、大学からは、鶴理事長・鶴副理事長・川崎学長・広土会前会長の藤木前教授の他、建設工学科の全教職員の臨席を賜り、記して深謝する次第である。

以上のように、30周年記念事業は、成功裏に終始した旨の報告があった。広土会創立30周年記念誌・名簿号は、この行事に参加された会員の皆様の御郵送したとの報告があった。なお、現在、本部（建設工学科、旧土木工学科）に約300部の余裕があるので、年度会費納入者に限り、無料配布しますので本部（建設工学科教職員）に問い合わせ下さい。また、懇親会では、年齢相応の話題に終始していたようであった。

広土会副会長 伊藤 秀敏

私では少し力不足であり、何とかならないものかと、支部会員である東洋建設㈱四国支店副支店長の黒川哲さんに連絡を取り、後輩のために、一肌脱いでいただきました。黒川さんには、お忙しい中お力添えをいただきましたこと、この欄をお借りしてお礼申し上げます。

Y君には、新しい職場で、これからも自信とファイトを持ち、実力を発揮しながら頑張って行ってもらいたいと願うものであります。

阿讃支部では、広土会の会則にあります「会員相互の親睦」を深め、会員が励まし合い助け合えるよう努めていきたいと考えています。

活動は十分ではありませんが、会員一同更に頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともご協力、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

不況とは言え、土木事業は社会のニーズも多く、まだまだ必要不可欠なものであります。

広土会の皆様方には、今年が輝ける21世紀に向けての「昇り竜の2000年」となりますよう健康に留意されまして、ご活躍されますこと、心よりお祈り申し上げます。

島根県のPR

島根支部・島根県土木部
上村直樹（24期生）

今回は、皆様があまり知らないと思われる島根県を紹介したいと思えます。

島根県は延長約230kmと東西に細長く隠岐の島という離島を有し、歴史的・風土的に異なった背景を持つ出雲地区、石見地区、隠岐地区の3地域からなる人口約76万人の県であります。全県的に特殊土壌地といわれる、花崗岩風化土、シラスなど浸食を受けやすい土壌に被われ、豪雨・長雨による崩壊・流出などの災害を受けやすく、農業生産能力にも乏しい地域であります。

また、大半が山地で占められ峻険な地形が多く、河川もその延長が短く急流が多いことから、気象条件とも相まって、昭和39年、昭和47年、昭和59年及び広島県でも猛威を振るった昭和63年大災等、集中豪雨災害を幾度も経験しています。

また、広範な中山間地域を抱え、これらの地域では、若年層の流出等に伴い、過疎化・高齢化が急速に進行し、農林業の衰退とともに耕作放棄地の増加や森林の荒廃が進んでいる状況です。

さらに東京や大阪など大都市圏から遠隔の地にあるとともに、これまで日本の発展を牽引してきた太平洋ベルト地帯により形成されている「第一国土軸」上にないという地理的条件のもとで高速道路をはじめとする高速交通体系の整備が遅れておりまた、求心力に欠ける小規模な八市が東西に数珠状に連なる中で、高次の都市機能が集積し、県土の発展を支える中核的な教育が育っていない状況です。

このような状況の中、島根県は都市機能、環境整備、災害対策等の土木事業をたくさん抱えております。すなわち皆様方の来県されることも多いかと思えます。そこで多少島根県の観光スポット？をPRさせていただきます。

冒頭にも申し上げたとおり当県は3つの地域に大別できます。幸いにして私はこの3地域いずれにも住居した経験がありますので順次ご紹介させていただきます。

まずは出雲地域です。出雲は、島根県の東部に位置し、全国

広土会創立30周年記念事業報告

1. 記念事業開催の趣旨

広土会創立30周年を迎え、これまでの歴史を振り返り、会員の親睦を深め、今後の「広土会」とその会員がより一層社会に向けて飛躍し、21世紀の明るい未来を力強く歩いていくことを祈念して開催。

2. 記念事業の内容

(1) 記念講演会

日時：平成10年7月18日(土)18：00～19：00
場所：リーガロイヤルホテル広島クリスタルホール
演題 ことわざから見た県民気質
講師 神田三亀男氏（広島民族学会常任理事）

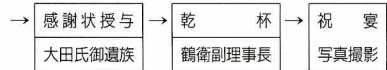
(2) 30周年記念祝賀大懇親会

日時：平成10年7月18日(土)19：00～21：00
場所：リーガロイヤルホテル広島ロイヤルホール
会費：¥10,000

来賓 鶴裏理事長 鶴衛副理事長 川崎尚学長
坂井重信広島県土木建築部次長
道田同窓会会長
招待者 藤木前広土会会長 岡野広土会名誉会員
元関西支部長大田隆三氏御遺族



式次第



(3) 30周年記念誌、会員名簿
発行：平成11年3月21日（発行部数1000部）

3. 感想

開催決定から記念誌の発行にいたるまで約2年半にわたる広土会創立30周年記念事業が終了いたしました。事前の準備から券の販売、記念誌の広告募集、名簿の編集と実行委員や各期幹事をはじめ数多くの卒業生の皆様の協力によって成し遂げられたものです。実行委員の一人として準備に携わってきてあらためて広島工業大学土木工学科卒業生のパワーを実感しました。諸先輩方が培われてきた「広土会」の歴史に敬意をはらうとともに、さらなる飛躍に向けて若い力を加え40周年、50周年へつなげていきたいと思ひます。 創立30周年記念事業実行委員 広本忠典（15期）

(社)土木学会中国支部
平成12年度研究発表
会の開催お知らせ

日時：平成12年6月2日(金)・3日(土)

場所：広島工業大学工学部（広島市佐伯区三宅2-1-1）ならびにメルパルク広島（広島市中区基町6-36）

工事見学会：6月2日(金) 13：00～15：00

太田川橋梁（仮称）

講演会：6月2日(金) 15：30～17：30

（メルパルク広島）

桜井 春輔（広島工業大学・学長）ならびに久保田荘一（建設省・中国地方建設局長）

交流会：6月2日(金) 18：00～20：00

（メルパルク広島）

研究発表会：6月3日(土) 9：00～17：30

（広島工業大学工学部）

技術相談室：6月3日(土) 10：00～14：00

（広島工業大学工学部）

詳細は

<http://diamond.cc.it-hiroshima.ac.jp/jsce2000/index.html>

をご覧ください。